

平成 25 年度 日野市立図書館の

運営の状況に関する評価書

(平成 24 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 25 年 9 月

日野市立図書館

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	図書館の現状	1
	(1) 施設	1
	(2) 組織・職員	2
	(3) 主な業務	2
4	評価の方法	2
5	評価の対象事業	2
6	評価の結果	3
7	評価表	
	事業No. 1 乳幼児・小中学生サービス	4
	事業No. 2 青少年サービス	5
	事業No. 3 学校支援	6
	事業No. 4 成人・高齢者サービス	7
	事業No. 5 障がい者サービス	8
	事業No. 6 各館での取り組み	9
	事業No. 7 資料の選択・収集	13
	事業No. 8 予約・リクエスト・相互貸借	14
	事業No. 9 レファレンスサービス	15
	事業No. 10 地域・行政資料(市政図書室)	16
参考資料	日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱	17
	図書館協議会委員名簿	18

1 はじめに

平成 20 年 6 月に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること。また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から図書館の運営状況に関する評価を開始しました。

2 評価の目的

この評価は、図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深め、連携及び協力を推進し、市民・利用者に信頼される効果的な図書館運営の推進に資することを目的に行います。

この目的遂行のため、図書館は毎年 1 回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとしています。その、評価結果に基づき図書館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 図書館の現状

(1) 施設 ※平成 25 年 4 月現在

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220 m ²	昭和 48. 4. 28	豊田 2-49-2	253 千冊
移動図書館	1 台 (20 駐車場)	昭和 40. 9. 21	同上	28 千冊
高幡図書館	1,358 m ²	昭和 55. 5. 11	三沢 4-1-12	88 千冊
日野図書館	422 m ²	昭和 55. 5. 18	日野本町 7-5-14	51 千冊
多摩平図書館	856 m ²	平成 16. 4. 1	多摩平 2-9 多摩平の森ふれあい館 1 階	105 千冊
平山図書館	412 m ²	平成 20. 4. 5	平山 5-18-2 平山季重ふれあい館 1 階	50 千冊
市政図書室	140 m ²	昭和 52. 12. 1	神明 1-12-1 日野市役所 1 階	41 千冊
百草図書館	759 m ²	平成 2. 11. 16	百草 204-1 ガーデンビュー石神 D2 階	68 千冊

- (2) 組織・職員 ※平成 25 年 4 月現在
1 課 3 係 (庶務・業務・奉仕)、6 分館
正規職員 40 人 (うち司書 28 人)、
再任用職員 3 人 (うち司書 1 人)
嘱託職員・臨時職員 (週 30 時間換算) 25.5 人

(3) 主な業務

- ・ 図書館資料の収集、整理及び保存
- ・ 個人貸出、団体貸出
- ・ 読書案内及び読書相談
- ・ レファレンス
- ・ 読書会、研究会、講習会、展示会等の主催及び奨励
- ・ 館報その他の読書資料の発行及び頒布
- ・ 図書館資料の図書館間相互貸借
- ・ 市内の学校への資料提供と協力
- ・ 地方行政資料の収集及び提供

4 評価の方法

評価の対象事業について、図書館の活動実績・自己評価を、図書館協議会に報告し、事業の説明会を実施しました。それに対し図書館協議会委員の意見をいただき、評価を行いました。

5 評価の対象事業

「第 2 次日野市立図書館基本計画」の基本方針の下の重点的な取り組みから抽出した、下記 10 事業について評価を行いました。

- 基本方針 すべての市民が利用しやすい図書館をめざします
 - 事業No. 1 【乳幼児・小中学生サービス】
 - 事業No. 2 【青少年サービス】
 - 事業No. 3 【学校支援】
 - 事業No. 4 【成人・高齢者サービス】
 - 事業No. 5 【障がい者サービス】
 - 事業No. 6 【各館での取り組み】
- 基本方針 市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します
 - 事業No. 7 【資料の選択・収集】
 - 事業No. 8 【予約・リクエスト・相互貸借】

○基本方針 市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します
事業No. 9 【レファレンスサービス】

○基本方針 地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に
伝えます
事業No.10 【地域・行政資料（市政図書室）】

6 評価の結果

どの事業も、自己評価は概ね目標に対し成果をあげることができたとしています。一方、図書館協議会の総括的意見は次のとおりです。『平成 24 年度の図書館事業の運営は、財政的、人的な面で、大変厳しい状況の中にあつて、概ね高く評価できる内容といえる。

図書資料の貸出し数、図書館利用者数には大きな伸びはみられないが、このような状況下にあつて横ばいであることは止むを得ないものとする。

今年度についても引き続き創意工夫を重ね、市民の図書館への期待に応えるべく、努力されることを希望する。

また、図書館活動の PR のための諸活動を積極的に推進して欲しい。

限られた資源の有効活用には図書館活動のすべてに浅く広く配分するのではなく、各事業運営に優先順位づけを行うことが必要である。

本来、図書館、公民館等のいわゆる社会教育施設は、社会教育行政、生涯学習行政の中核的施設である。この観点に立てば、これらの施設が円滑に運営できる予算的、人的措置が厚くとられるべきである。現下の財政状況の中では厳しいことは理解できるところではあるが、可能な限り、予算的措置がとられるよう市政全体の中で対処されることが望まれる。』

平成 24 年度は「第 2 次日野市立図書館基本計画」（計画期間は平成 24 年度から平成 29 年度までの 6 年間）を策定し、今後の図書館のあり方を示しました。それはこれからも基本理念として「暮らしの中に図書館を」を継承し、図書館が市民の読書の楽しみや知識を得るための「拠りどころ」、教育と文化の「依りどころ」、また、気軽に立ち寄ることのできる憩いの場としての「寄りどころ」であることをめざし、施策・事業に取り組んでいくものです。

今回の評価や意見を受けて、次年度以降も取り組みを継続・充実させるとともに、課題の解決や改善に努め、「第 2 次日野市立図書館基本計画」の実現を進めていきます。

各事業における図書館の自己評価及び図書館協議会からいただいた評価・意見は、4 ページ以降の評価表 1～10 のとおりです。

図書館事業評価表 24年度

事業No 1

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 乳幼児・小中学生サービス	事業開始年度	昭和
			40年度

事業の目的・内容

「図書館基本計画」「日野市子ども読書活動推進計画」に基づきサービス、資料の充実に努める。
【乳幼児サービス】 1. 乳幼児期より本に親しめるよう親子で参加できるおはなし会を開催する。2. 乳幼児が集まる施設での読書推進活動に図書館が支援できる体制をとる。3. 保育園・幼稚園への団体貸出を行う。4. 保護者・保育関係者からの読書に関する相談の受付、講座を開催する。
【小中学生へのサービス】 1. おはなし会を定期的に開催し、読み聞かせやブックトークを通じて子どもたちに直接読書の楽しさを伝える。2. 小学校3年生の学級を訪問し、図書館利用ガイダンスやブックトークを行う。3. 児童関連施設等の読書推進活動に、図書館が支援できる体制をとる。

24年度事業目標

①子どもの読書に関する講座を開催する【重点事業】
 ②児童図書 の 充実、貸出冊数の増加をめざす
 ③小中学校、市内児童関連施設と連携し子ども読書活動をさらに推進する。
 ④夏休みジュニア・スタッフ（中学生仕事体験）を募集する。

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
	児童書の年間受入冊数	冊	7,122	8,101	8,341	103.0
	児童書の蔵書冊数	冊	150,954	153,965	156,729	101.8
	児童書の貸出冊数（個人貸出）	冊	466,541	471,867	479,398	101.6
	配本延べ回数／配本冊数（合計）	回／冊	34／1,700	38／2,540	46／2,780	121.1／109.4
	訪問小学校数（学校数／学級数）	校／学級	15／47	16／48	15／47	93.8／97.9
	おはなし会回数／延べ参加者数（全館）	回／人	87／1,846	89／1,792	95／1,620	106.7／90.4
	出張おはなし会実施回数	回	28	22	25	113.6

①子どもの読書に関する講座開催
 ・「赤ちゃん向けのおもちゃをいっしょに作ろう！絵本を楽しもう！」（乳幼児と保護者対象）参加者…大人35人、乳幼児31人
 ・出張よみかせ入門講座開催回数…2団体へ各1回（小学校・幼稚園のPTA）
 ④ジュニアスタッフ参加者…52人

自己評価意見

①手づくりおもちゃと絵本読み聞かせの講座は保育士の先生と連携したことで、講座の内容に幅をもたせることができた。PTAからの要請で出張読み聞かせ入門講座を行った。いずれも受講者から好評で、手ごたえを感じた。
 ②児童図書の貸出冊数が順調に伸びた。
 ③1985年以来実施している小学校向け図書館ガイダンス（2003年からは3年生を対象）は行事として定着した。学校公開日と重なる事もあり、保護者に対しても図書館利用をアピールできる機会となっている。乳幼児の読書支援として、保育園・幼稚園に加えて今年度より児童館9館への配本を開始、好評を得ている。
 ④ジュニアスタッフは、開館前の時間を利用して書架整理や書架からの予約本探し等をしてもらっているが、中学生になるのを待ちかねて応募してくれる者もいる。

今後の課題

児童を一人で外出させる（図書館に行かせる）家庭の減少や、放課後の部活動・習い事等により、平日のおはなし会に来る児童の数は減少している。「読みたい本をWEBで予約、週末に受取りに行く」といった児童も多い。学校訪問や夏休み学童クラブ訪問等の機会を捉え「身近で頼れる図書館」の存在をさらにアピールし、家族そろっての図書館利用に繋げてゆく。

図書館協議会評価意見

- ・子どもの読書活動推進のために、図書館は様々な工夫をしてキメ細かく働きかけており、高く評価する。貸出冊数をはじめ、数値が前年を上回るものが多く、努力が表れている。
- ・保護者、保育士、教師などに対する「講座」の実施は子どもと本をつなぐ場と機会を拡充することであり、読書活動推進のすそ野が広がる。大いに実施してほしい。ことに保育士と連携した講座は秀逸であり、双方で協力し推進する連携事業の成果・効果は大きい。
- ・子どもの身近に本を置く「配本」業務は、子どもの読書環境整備であり大事にしてほしい。今後は、実施回数や冊数による成果と併せ、事業の質的な成果も吟味してほしい。
- ・中学生の職業体験やジュニアスタッフに参加した子供たちの感想を文章化し、外向きにアピールすると良い。
- ・小学生、中学生の図書館利用状況が分かると良い。
- ・読み聞かせの楽しさを多くの人に知ってもらうため、講座を開催してほしい。

図書館事業評価表 24年度

事業No 2

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 青少年サービス	事業開始年度	昭和
			40年度

事業の目的・内容	<p>ヤングスタッフ事業（＝公募した青少年たちによる、同世代に向けた読書推進活動。平成21年度開始）</p> <p>目的：「第2次子ども読書活動推進計画 3 青少年の読書活動推進について」に基づき、ヤングスタッフ活動を通じ、スタッフが相互に協力し合い、自らの読書への関心と意欲を向上させるとともに、同世代へ向けた読書環境の発展に資する。</p> <p>内容：1. 図書館内にヤング向け図書展示コーナーを設置、資料の選定、POP、ディスプレイを手掛ける。2. 作家リスト、読書カレンダー等の作成による情報発信。3. ブックパレード（＝ヤングスタッフが薦めたい本を紹介するイベント）による同世代に向けての参加型啓発事業。</p>
----------	--

24年度の事業目標	<p>①高幡図書館に設けているヤング向け図書展示コーナーを、中央図書館にも新設し、季節テーマなどテーマに沿った本を並べてコーナーの充実を図り、利用に繋げる。【重点事業】</p> <p>②「青春Bookworm vol.7」「作家リスト」「読書カレンダー」の作成と配布。</p> <p>③ブックパレードの実施</p>
-----------	---

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比 (%)
		ヤングスタッフ人数	人	18	19	24
	ヤングスタッフ会議	回	-	11	15	136.4
	青春Bookworm（お薦め本リスト）発行	種類	1（1500部）	3（1500部）	1（500部）	33.3
	作家著作リスト発行	作家	1（1000部）	3（450部）	3（450部）	100.0
	読書カレンダー（月別お薦め本リスト）発行	種類	-	1（500部）	3（300部）	300.0
	ブックパレード開催	回	-	2	1	50.0
	ブックパレード参加者数	人	-	22	5	22.7
	ヤングスタッフ作家別座談会	回	-	3	3	100.0

事業の成果	<p>①ヤングスタッフによるヤング向け図書展示コーナー（高幡、中央）の運営（本の選定・POP作り・整理等）ができた。</p> <p>②ヤングスタッフによる作家別座談会と、これを基に作家別著作リストを作成した。（はやみねかおる、西尾維新、森見登美彦）</p> <p>②読書カレンダーの作成に力を入れ3種類作成した。</p> <p>③ブックパレードを実施した日は大雨だったこともあり、参加者が少なかった。</p>
-------	--

自己評価意見	<p>○青少年への情報提供、読書環境について概ね目標達成された。</p> <p>①展示コーナーは、スタッフが立ち寄り、チェックを行い、整理等を行っていた。貸出数に繋がっていたかどうかの確実な検証策がないが、展示を行う事で動きの少なかった本が貸し出された。</p> <p>②③新規メンバー（高校一年生）中心の活動となり、年度当初は、本年度の活動内容を決定することに時間を取られ、その結果、作家リスト等の発行やブックパレードの開催が遅れた。</p> <p>③ブックパレード実施後のアンケートでは、ヤングスタッフの活動について、興味を持った等の意見もあったり、新たにヤングスタッフ応募者もあった。</p>
--------	---

今後の課題	<p>1) 毎年募集をかけ新規メンバーが加わる状況での、年度当初の会議の持ち方を検討。</p> <p>2) 展示された本の貸出状況のチェック方法の検討。</p> <p>3) ブックパレード、座談会等の参加型のイベント実施。</p> <p>4) ヤングスタッフの活動の周知と、読書の楽しみ、同世代の本好き仲間の拡大。</p>
-------	---

図書館協議会評価意見	<p>・「ヤングアダルト（YA）サービス」（＝児童と成人の中間にあって配慮が必要とされる青少年層を対象とした読書活動推進サービスで、主に図書館界や出版界で呼称される。）は、日本においては歴史が浅く、YAコーナーを設置しているだけという図書館も多い。その中で、日野市は青少年自身を活用した活動プログラムを実施しており、独創的で大いに評価できる。ヤングスタッフをサポートする職員のカも大きい。</p> <p>・刊行物の作成・イベントなど、それなりに成果をあげており、今後の有効活用ができるよう期待する。</p> <p>・ブックパレードの開催日は大雨のせいもあり参加者が少ないが、継続していくことが成果につながる。</p> <p>・今後も周知に努めてより多くの青少年に発信し、担当者のノー・ハウを蓄積し、事業の展開を図ってほしい。</p> <p>・今は「読書」プログラムに特化しているが、「調べる」プログラムも開発するとよい。図書館の基本的機能である「調べる」ことを理解できるようになるのはもちろん、YAの視野を広げ、「読書」プログラムの進化拡大につながり相乗効果をあげるだろう。</p> <p>・図書館として、児童サービスと並ぶ「ヤングアダルトサービス」を位置づけ、魅力ある資料構成や居場所を作るなど工夫をして、広く青少年に向けてサービスを展開してほしい。</p>
------------	--

図書館事業評価表 24年度

事業No 3

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 学校支援	事業開始年度	平成
			18年度

事業の目的・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小中学校での調べ学習・読書指導用図書を要望に応じて用意、搬送する。学年単位の各々の課題について資料面で応援する。 2. 職業体験学習の児童生徒を受入れる。図書の貸出し業務や図書整理を実際に体験する事で市民と交流し、地域の図書館の担う役割を知る機会とする。 3. 教諭が行う学校図書館用図書の選書に際しての情報提供をする。 4. 教諭と図書館職員との情報交換・交流の場を設ける。
----------	--

24年度の事業目標	<ol style="list-style-type: none"> ①必要な資料を授業の進行に沿って提供する。【重点事業】 ②相談内容を記録し、選書に反映させる。
-----------	--

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比 (%)
	相談件数	件	229	188	167	88.8
	搬送回数	回	259	221	196	88.7
	冊数	冊	10,396	10,038	8,793	87.6

①小中学校の先生から依頼のあったテーマに沿って資料を集め、週1回搬送車で学校へ届け、調べ学習を資料面で支援した。

*中高生の職業体験受け入れ →のべ24校60人39日
 *司書教諭連絡会との連携 →図書館活動の紹介、学校図書館での図書購入のための図書展示会開催
 *学校図書館貸出システムによる学校図書館の支援継続（市立図書館システムの更新時に、学校図書館システムのパッケージも導入し、貸出・返却・予約、図書管理、利用者管理等業務を機械化。システムの管理を市立図書館が行っている。）

自己評価意見	<ol style="list-style-type: none"> ①学校図書館で対応しきれない資料を搬送し、調べ学習を支援している。先生によっては繰り返し依頼があり、大いに活用してもらっている。 ②調べ学習に役立つ図書を意識的に購入することで、依頼されるテーマに応えられるように努めた。 <p>*テーマによっては、依頼される時期が数校から同じ内容で依頼されることが何度かあり、1校あたりに貸し出せる資料数が少なくなりました。</p>
--------	--

今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平成25年度に実施される「学校図書館システムの更新」に向け、システム更新の説明会や連絡調整会を実施するなどして、学校図書館との連携を更に進める。 2) 貸出冊数が減少した「学校搬送業務」について、新しく着任された教諭へのPR等に力をそそぐ。 3) 数校から依頼されるテーマが重複した場合にどうするか。関連する資料の蔵書数を増やすのか検討が必要。 4) 各学期の始まりや休み中は依頼も少ないが、各学期中はほぼ毎週5～6校から依頼があり、多い時には8校分の搬送があった。これ以上増えると増便や職員による搬送も視野に入れる必要がある。
-------	--

図書館協議会評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送量や従事時間に制限がある中、健闘している。 ・前年度に比べ減少している項目が多い。 ・今後も校長会等で図書館の積極姿勢を大いにアピールし、小中学校教員への働きかけを行ってほしい。 ・図書委員と図書館員と教員との懇談会ができるとうい。 ・学校からの要望に応えることが先決ではあるが、学校図書館が活性化するような支援を考えていく必要がある。 ・学校課と連携しながら、司書教諭との連携を充実させ、学校図書館協力員の研修などもできるとよい。 ・『第2次日野市子ども読書活動推進計画』にある「学校図書館支援センター的な役割」を果たすための体制のさらなる充実を努めてほしい。 ・学級文庫について、検討を進めてほしい。読み物をバックにして配本する案に対しては参加する人材を広く求める必要がある。
------------	--

図書館事業評価表 24年度

事業No 4

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします	事業開始年度	昭和
	成人・高齢者サービス		40年度

事業の目的・内容	1. 誰もが利用しやすい身近な図書館… 移動図書館「ひまわり号」によるサービスの充実、交通機関の案内 2. 誰もが入りやすい「憩いの場」としての図書館… 滞在性を高めるために机や椅子の配置等の工夫と環境整備、子ども連れの方への配慮 3. 多様な利用者へのサービス… 高齢者へのサービス、外国人へのサービス
----------	--

24年度事業目標	①多様で興味・関心を寄せるテーマ図書展示の充実を図る。(重点事業) ②資料(図書、雑誌、CD・ビデオ等)の充実を図り、資料の貸出や参考調査・資料相談に応える。 ③市民が利用しやすい形で商用データベースの活用を進める。 ④子どもや高齢者・外国人も利用しやすく、快適で滞在性の高い環境整備を進める。
----------	---

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
	年間受入冊数(児童書を除く)	冊	27,957	29,206	27,301	93.5
	蔵書数(児童書を除く)	冊	596,478	610,901	621,366	101.7
	CD・ビデオ等保有数	点	4,482	4,916	5,191	105.6
	図書・雑誌貸出(個人貸出、児童書を除く)	冊	1,239,352	1,232,464	1,221,158	99.1
	CD・ビデオ等貸出(個人貸出)	冊	17,510	17,151	17,406	101.5
	館報ひろば 部/回		16800/12	16280/12	15600/12	95.8

事業の成果	①図書展示テーマ…【食育】【子育て支援】【自殺防止】【がん対策】【天体ショー】【イギリス】【大掃除】【民間信仰】【図書館に行こう】【ひろば特集イタダキマス】【涼くなる本】【新しい年なにか始めたいこと】【いろいろな塔】【山歩き・散歩】【神社・仏閣】【春を探しに】【小島善太郎画伯】 ②CDを23年6月から百草図書館にも置くようにしたので、CDの保有数が増加した。 ③商用データベース数…6点 *高齢者向けパソコン講座…60歳以上の市民を対象に図書館ホームページを検索し、蔵書の予約方法や情報源の活用方法を学ぶ。実践女子大学図書館及び実践女子短期大学図書館との共催事業。参加者19人。
-------	--

自己評価意見	① テーマ図書展示のうち、食育は食育計画、子育て支援は子育てプランを生かし、継続することで協力した。自殺防止は「いのちを守る自殺対策緊急プラン」により「自殺対策強化月間」となる3月に自殺防止展示を3か所で開催した。子育て支援や食育と同様に庁内の声を受けて、がん対策も3か所でリレー展示を実施した。市民の関心を多くひきつけ、貸し出しも多かった。 ②④ 洋書の収集や環境整備などは引き続き検討し、見直し及び改善をすすめる。 ③ 公開の環境が整わず、活用にはいたらなかった。 ④ 快適で滞在性の高い環境整備の検討がまだ不十分のため、引き続き検討し改善を進める。 *高齢者向けパソコン講座は初心者向けとして実施した。図書館ホームページは選ぶ項目が多いため、混乱することが多い。いろいろな検索や本の予約方法を実際に習うことで、参加者は興味が広がり調べる醍醐味が味わえたと思う。満足していただけた感想を聞いたが、実際にはアンケートを実施していないのが残念。 *館報ひろばに図書館員のおすすめの本のコラムを掲載しているが、好評なので継続する。また、もっと広く知ってもらえるように周知する。
--------	--

今後の課題	1) 子育て世代と高齢者に向けた資料を更新し充実させる。 2) 日野市のISO自己宣言に伴い、環境に関する資料の活用を促進させるための検討を進める。 3) 図書館への交通案内や館内表示、滞在性向上の空間の確保に向けての検討・準備を進める。 4) 図書館サービスを周知するために、図書館HPや市役所HP、地元メディアを通して広報活動を広く行う。
-------	--

図書館協議会評価意見	・テーマ図書展示が活発であることを高く評価する。様々な年代層のことを考えた多様なテーマ設定がよい。また、POP表示などがあると読書意欲がかきたたえられてより良いと思う。 ・日常生活に直結したテーマ、時事的なテーマなど市民がふと疑問に思うテーマを大いに取り上げるなどして、図書館が暮らしや仕事に役立つところであることを印象付けるようなものもほしい。 ・庁内の関係部局とつながりのあるテーマ展示は今後もぜひ継続してほしい。 ・洋書を収集する際、方針を決めた方がよい。 ・商用データベースが活用されるよう、もっとアピールする必要がある。 ・高齢者パソコン講座を開いたのはとてもよい。「情報格差」をなくす取り組みだと思う。こういった利用者参加型のイベントをもっと実施できるとよい。また、ヤングスタッフ事業のような感じで、「成人or高齢者」プログラムを組めるとよい。
------------	---

図書館事業評価表 24年度

事業№ 5

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 障がい者サービス	事業開始年度	昭和40年度
------	---	--------	--------

事業の目的・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい技術・機器などを取り入れ、効率的に資料・情報を利用できるようにする。 2. 既存施設・設備のバリアフリー化を図る。 3. 点字授業やパソコン講習をさらに充実させる。 4. 市政情報の点字版・録音版化の促進。 5. 病院・介護施設とも連携を図り、図書館サービスを推進する。
----------	---

24年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> ①点字録音図書オンラインデータベースの活用を進め、サービスの効率化を図る。(重点事業) ②録音図書の保存・活用のため、引き続きテープ資料のDAISY化を進める。(重点事業) (DAISY= Digital Accessible Information Systemの略で「アクセシブルな情報システム」と訳されている。このシステムで制作した録音図書を主にCD-ROMによって貸し出す。従来のカセットテープに代わるもの。) ③障害者サービス資料の電算化を促進し、事業の効率性を向上させる。 ④障害者サービス蔵書目録の整理・作成を行ない、利用者へより有効な情報提供に努める。
----------	---

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
	登録者数 個人/団体	人/団体	162/7	160/7	154/7	96.2/100
資料変換者数 音訳者/点訳者	人	38/12	36/12	31/12	86.1/100	
総貸出タイトル数(相互貸借分含む)	タイトル	1878	3934	3450	87.7	
対面朗読 件数/延べ時間数	件/時間	169/496.5	161/473	178/512	110.6/8.2	
点字図書作成枚数	枚	5857	9370	7617	81.3	
録音図書作成タイトル数	タイトル	53	44	27	61.4	
パソコン指導 人/延べ時間数	人/時間	7/299	7/277	10/326	142.9/117.7	
職員による宅配 利用者数	人	21	13	14	107.7	
宅配回数/宅配点数	回/タイトル	322/1392	227/1550	130/845	57.3/54.5	
ボランティアによる宅配 利用者数	人	2	4	5	125	
宅配回数/宅配点数	回/タイトル	15/73	18/101	38/166	211.1/164.4	
実働ボランティア数(登録ボランティア数)	人	1(1)	7(18)	3(18)	42.9	

①相互貸借による借用件数は1224件、内オンラインデータベース(サピエ)利用件数は1188件(97%)。23年度は899件、今年度は3.2割の利用増。
 ②「ごみカレンダー」「eco」(ごみゼロ推進課発行)のDAISY(デージー)版製作
 * 点字授業(1クラス2時間)… 6校 19クラス
 * 音訳者講習会…登録音訳者を対象に、全4回の校正講習会を実施。(受講者19人)

自己評価意見	<ol style="list-style-type: none"> ①サピエのオンラインリクエストを利用して、各々の利用者のリクエストに応じた幅広い資料の提供を行った。このオンラインシステムの活用は、より迅速な資料提供へとつながっている。 ②図書館資料だけでなく、他部署と連携して、「ごみカレンダー」「eco」等のDAISY版を製作し、広く市民の利便性を図ることができた。 ③新たに作成した資料はすぐに資料情報を電算化し、より早く利用者に提供することができた。 ④既存資料の資料情報の電算化や、蔵書目録の整理・作成については、職員体制の変更や日々のリクエスト処理等に追われ、十分な時間が取れなかったため、計画通りに進めることができなかった。 * 職員による宅配の実績がかなり減少してしまった。要因として、利用者の要望が例年に比べ少なかったということ、要望があってもすぐに応えられる体制をとれなかったことがある。 * ボランティアによる宅配は大幅な利用増になっているが特定の館のみの実績だった。積極的なPRを行ない全館に広めていきたい。
--------	--

今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 職員による宅配サービスを効率的に行なうための業務改善。 2) ボランティアによる宅配サービスの見直しと今後のサービス検討を行なうための組織作り。 3) 障害のある児童への障害者サービスのPR。 4) 新規採用音訳者の音訳技術向上とDAISY講習の推進。 5) 「日野市立図書館点訳図書・録音図書蔵書目録」を整備して利用の拡大をはかる。
-------	--

図書館協議会評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい状況の中での努力は評価できる。 ・ 対面朗読をたくさんこなしている。 ・ 関係部局との連携も必要。 ・ 「ごみカレンダー」等のDAISY版を製作したことは利用者の利便性の向上に重要で評価できる。 ・ 「テーマ展示」などで、利用者一般にも障害者サービスに対する理解を図ることも必要。 ・ 要望にすぐ応えられるための体制づくりが必要。 ・ 職員による宅配サービスはもっとボランティアに頼っているのではないか。 ・ ボランティアによる宅配は、募集方法を工夫したり、ポスター掲示などもっとPRが必要。 ・ 高齢等により体が不自由な人にとって、宅配サービスはなくてはならないものである。今後も引き続き実施してほしい。
------------	--

